

=平成24年度SSH成果発表会=

平成25年1月30日（水）パトリア日田にて「平成24年度スーパーサイエンスハイスクール成果発表会」を実施しました。第1部では本校のOBでもある室原豊明（名古屋大学大学院医学系）教授に「大海へ繰り出せ日田の若い力よ、そして創造的であれ」の演題で講演をしていただき、第2部では今年度の成果である「科学探究基礎（SR）」と「探究Ⅰ」の生徒研究発表を行いました。



会場の様子



講師 室原豊明 教授

講演会は、室原先生の高校在学中の話から始まり、現在の職に就くまでの経緯、医大でどのような研究が行われているのかの後、先生の専門分野である循環器系の心臓や血管についての最新の研究内容や、iPS細胞を利用した再生医学の可能性について、科学研究のヒントは意外と身近なところに隠れていること、夢を実現するためには将来についての具体的なビジョンを持つことが大切であることを話して下さいました。

質疑応答では「何かを見つけ出すために日頃から必要なことは何ですか？」との問いに「大胆な発想を心がけることが必要。他の人が思いつかないようなことをやってみる、やってみる。」とiPS細胞でノーベル賞を受賞した山中先生が研究を始めたときには学生がほとんどいなかった話を例にあげて説明して下さいました。



質疑応答の様子

第2部の生徒研究発表では6つの班が発表を行いました。

1年生「地域探究」最優秀班は日田市のバイオマス資源化センターで行われている研究や発電について、「研究室探究」最優秀班は日本文理大学工学部で行われている昆虫の飛行の研究についての発表を行いました。放課後や冬期休業中に、慣れないパワーポイントの作成に取り組み、学習した成果を分かりやすく伝えることが出来ました。

海外研修の報告では、森林研究所での研修、現地の高校との交流会で行った英語プレゼンテーション、JICA 在マレーシア事務所での講義やプトラ・マレーシア大学で行われているバイオマス資源活用の研究について報告しました。

2年SSクラスの「探究Ⅰ」では、授業時間を含めて放課後や休日を利用して実験に取り組みました。「えひめAIを利用した有機物分解」の発表では、農業で利用されている微生物の有効な利用方法について検証することを目的とし、実験方法を試行錯誤して考案、失敗経験を踏まえて今後も改善を加えながら結果につなげていきたいと課題を明確にしていました。「水郷のめぐみ～水から地域活性～」は、水郷と呼ばれる日田の水について、地下水に注目して他の地域の水との違いを発見し、さらにその水を利用した地域活性の可能性についての発表でした。科学部は「エリンギの菌糸体の成長について」というテーマで発表。大山町で栽培が盛んな「エリンギ」に着目し、培地に含まれる糖類と菌糸体の成長の関係について研究を行っていました。

閉会行事では九州大学工学研究院准教授の清野聡子先生より、地域に根ざしたテーマでSSHの研究を深化させて貰いたいとの講評を頂きました。



清野 聡子 教授